



目次

- 一診療連携一 「循環器内科」のご紹介 2
- 一職場紹介一 「医師事務作業補助係(メディカルクラーク)」… 4
- 一新入職員紹介一 5
- 一お知らせ一 「IVR-CT 装置の更新について」 6

診療連携

「循環器内科」のご紹介



循環器内科
部長 鳥居 博行

〈はじめに〉

循環器内科は平成18年に、従来の6人体制から1人減の5人となりました。当科にも間違いなく医師不足の影が忍び寄っていますが、何とか現在の5人体制は維持し、急患も出来る限り全例収容できるように対応していきたいと考えています。

以下部門別に紹介します。

〈外来部門〉

開院以来月曜日・木曜日が定期の外来日です。原則、鳥居・山口の2名で診察にあたりそれ以外の人員で検査にあたっています。新患（当科初診）は多い時には20名以上となり、特に木曜日には心筋シンチもあることから、診察が終了するのは16時過ぎになります。再診ではワーファリン内服患者のPTコントロールや、血糖・脂質のコントロールが必要な患者さんが多数を占めています。最近ではPT値やヘモグロビンA1c値に加えて、心不全の指標となるBNP値も1時間程度で結果が見られるようになり、患者さんに当日結果をお知らせできるようになりました。当日の状態を説明できるということは、理解していただきやすいですし、安心感にもつながるのではと考えています。

当院外来の特徴としては虚血性心疾患に対する負

荷試験を徹底しています。歩行可能であればトレッドミル負荷心電図を施行し、陽性が疑われる場合は、ニトロール舌下を行った後に再度負荷を行っています。これにより狭心症としての重症度や冠攣縮の存在がある程度推察されるため、心臓カテーテル検査の必要性が判断できます。また外科の術前評価として冠動脈CTなどさらに踏み込んだ検査が必要か、なども判断しています。ただしトレッドミル負荷は時間を要するため人員不足やハード不足も重なり、結果説明までの待ち時間が長くなってしまふことが欠点ではありますが、診断の質を高める利点は捨てがたいと考えています。また当科のポリシーとして、当日紹介分の患者さんすべてに、当日返書を持参して帰っていただいています。帰途紹介病院に寄って報告される患者さんが多いため、返書作成にかかる時間は待ち時間増の一因ともなり得るのですが、継続していきたいと思ひます。

なお外来日以外の火曜日・金曜日・土曜日は朝から心臓カテーテル検査を行なっているため、急患は別として、緊急性がない患者さんのご紹介は、月曜日・木曜日をお願いしたいと思ひます。また急患のご紹介に際しましては、是非電話でご連絡頂きますようお願いいたします。

〈病棟部門〉

平成21年度の入院患者数は529例（昨年548例）でした。内訳は循環器疾患483例、循環器以外の疾患が46例でした。急性心筋梗塞は24例（昨年34例）であり、狭心症240例（昨年200例）、陳旧性心筋梗塞24例（昨年26例）、無症候性心筋虚血25例（昨年57例）、CABG後14例等を合計した虚血性心疾患総数は327例（昨年332例）で全体の61.8%（昨年60.6%）、

循環器疾患の67.7%（昨年66.1%）と、相変わらず入院患者の中で虚血性心疾患が最も多い割合をしめました。冠動脈インターベンション治療件数は141件（昨年154件）でした。平成19年度の最高件数より徐々に減少している原因は、薬剤溶出性ステントを使用して治療する件数が増加したため、再狭窄の発症が減少したことによります。虚血性心疾患の次に多かったのが不整脈の61例（昨年62例）で、その内訳は洞機能不全症候群17例、発作性心房粗細動18例、慢性心房粗細動1例、完全房室ブロック14例、高度房室ブロック4例、心室性頻拍症3例等でした。これらの内43例（昨年43例）に恒久的ペースメーカー植え込みを行いました。3番目に多かったのがうっ血性心不全の52例でした。この順位はここ4年間変わっていません。

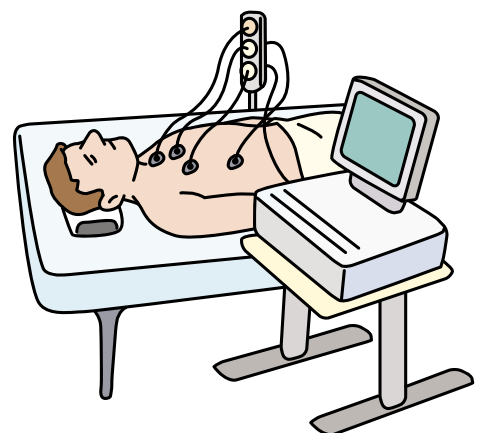
〈検査部門〉

生理機能検査は従来、月曜日・木曜日を外来患者さん中心に、その他を入院患者さん中心にあてていましたが、DPC制度の開始により月～土曜日の毎日外来の検査が行なわれるようになりました。心エコー件数は2649件で、内514件がベッドサイドポータブルでの施行でした。夜間もオンコールのエコー技師が対応してくれているため、安定した評価が出来ています。トレッドミル運動負荷試験は1112件、ホルター心電図は119件でした。その他、上下肢の血管エコーが162件ありました。最近の傾向としては、術後の症例や長期間カテーテル留置した症例等、静脈血栓症の症例が増加してきています。心臓カテーテル検査は従来どおり火、金、土曜日が検査日ですが377件と9年振りに400件を下回ってしまいました。この原因としては薬剤溶出性ステントの使用により、再狭窄が減少したことによると思います。ステント留置後の患者さんも年齢等を考慮し、冠動脈CT検査や心筋シンチにより診断可能であれば、侵襲的検査である冠動脈造影検査は回避してい

ますので、造影件数に対する治療件数の比率は今後高まって行くと思われます。心筋シンチは284件と、多かった年度に比べるとかなり減少しています。これは人員不足のため定期的検査日は週一回となっており、検査日である木曜日枠は3ヶ月～6ヶ月待ちといった状態になっています。特に5名体制となってからは火曜日、水曜日、金曜日に追加で行っていた検査が難しくなり、シンチ件数は減少しました。用いた核種の内訳はタリウム265件、BMIPPシンチ16件、MIBGシンチ3件でした。

〈終わりに〉

昨今の虚血性心疾患の増加に対して、テレビコマーシャルでも善玉・悪玉コレステロール値のチェックを勧めたりと、動脈硬化疾患に対する啓蒙活動が盛んになってきています。食事や運動療法が重要であることは言うまでもありませんが、エビデンスを根拠とした薬物療法の恩恵を患者さんに伝えていくことも、循環器内科として大切であると考えています。紹介医である先生方と今後も連携をとりつつ、努力していきたいと思えます。



職場紹介

医師事務作業補助係(メディカルクラーク)のご紹介

事務部 総務課

西 留 佳 代

医師事務作業補助係(メディカルクラーク)は、平成20年4月の診療報酬改正で医師事務作業補助体制加算が新設されたことに伴い、同年7月に各々医事経理課(証明書受付係)、庶務課(医局秘書)、診療録管理室からの部内異動で、総務部庶務課所属として3人体制でスタートいたしました。

現在は、当初のメンバーから1人交代し、事務部総務課所属として、医師の事務作業補助業務に従事しております。

業務としては、主に入院証明書、普通診断書、介護保険主治医意見書等の作成補助と医事課で受付された各種証明書の依頼、保険会社や患者様からの問合せの対応、生命保険会社等の担当者と医師の面談の設定、診断書に関するカルテの貸出し・返却や主治医がチェックした証明書等の発送や入金管理を行っております。

併せて外来患者様の注射薬、内服薬のオーダー確定入力、各調剤薬局から届いた後発医薬品の変更・疑義照会の連絡票をカルテへ添付する業務も行っております。

平成22年9月からは、当院の医療情報室の担当者が従来のデータベースで作成したシステムからパッケージソフトの入力システムに変更し、各生命保険会社等の様式変更がよりスムーズにできるようになりました。

診断書作成に関しても、退院総括や返書から医学用語や略語を調べながらの作業ですが、医師の意図した内容となっているか、患者様の要望に沿えるよう正確な内容となっているか、確認しながら作業することに日々努めております。

また、平成22年4月の診療報酬改正で医師事務作業補助体制加算の点数が大幅に引き上げられ、現在の診断書作成補助業務だけでなく他の医師事務作業補助にも従事させるため、現在の3人体制から10人体制に移行する予定です。

なお、診断書等の作成実績(月平均作成枚数)は下記合計欄のとおり徐々にではありますが、増加傾向にあります。

今後とも、医師事務作業の軽減に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

(参考)

診断書等の作成実績

(月平均作成枚数)

診療科名	20年度	21年度	対前年比	22年度	対前年比
消化器内科	45	44	- 2.2%	43	- 2.3%
循環器内科	15	17	+ 13.3%	21	+ 23.5%
神経内科	15	14	- 6.6%	11	- 21.4%
呼吸器内科	7	11	- 2.2%	13	+ 18.2%
小児科	25	30	+ 57.1%	31	+ 3.3%
外科	95	103	+ 8.4%	107	+ 3.9%
産婦人科	26	24	- 7.7%	26	+ 8.3%
麻酔科	2	3	+ 50.0%	4	+ 33.3%
放射線科	7	9	+ 28.6%	9	+ 0.0%
泌尿器科	—	—	—	6	—
合計	239	250	+ 4.6%	270	+ 8.0%
オーダー確定	61	72	+ 18.0%	65	- 9.7%

* 平成22年度は4月～9月の6カ月の実績。



新入職員（新任医師）紹介



放射線科部長
＜プロフィール＞

(H 22.10. 1～)
名 前 **上野 和人**
出身 県 鹿児島県
出身 大学 鹿児島大学
前 勤 務 先 県立北薩病院
趣 味 サッカー観戦

よろしくお願い申し上げます。



外科科長
＜プロフィール＞

(H 22. 8. 1～)
名 前 **實 操二**
出身 県 鹿児島県
出身 大学 鹿児島大学
前 勤 務 先 県立大島病院
趣 味 テニス

8月より外科に勤務しています。鹿児島市医師会病院には、昭和62年9月から半年麻酔科、昭和63年4月から9ヶ月、平成1年7月から半年、外科に勤務しました。今回は、21年ぶりの勤務です。体力的に心配ですが、頑張りますのでよろしくお願い致します。



外科医師
＜プロフィール＞

(H 22. 9. 1～)
名 前 **井上 真岐**
出身 県 鹿児島県
出身 大学 琉球大学
前 勤 務 先 鹿児島大学病院
趣 味 映画鑑賞

平成20年に鹿児島大学第二外科に入局し、9月から当院外科で勤務させて頂くこととなりました。不慣れな点多くご迷惑をおかけしていますが、日々新しいことを学ぶことができる恵まれた環境で楽しく勤務させて頂いています。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。



小児科医師
＜プロフィール＞

(H 22.10. 1～)
名 前 **川村 順平**
出身 県 鹿児島県
出身 大学 鹿児島大学
前 勤 務 先 鹿児島大学病院
趣 味 テニス

10月から小児科で勤務させて頂いております。当院では小児の救急患者が多いため、急性期疾患を中心に勉強しております。他科の先生方とも協力しながら、よりよい小児救急医療を提供できるよう努力していきたいと思っております。



麻酔科医師
＜プロフィール＞

(H 22.10. 1～)
名 前 **吉河 惇**
出身 県 京都府
出身 大学 川崎医科大学
前 勤 務 先 鹿児島大学病院
趣 味 バスケットボール、スポーツ観戦(TV)

京都での2年間の研修を終え、平成22年4月から鹿児島県の地に飛び込んできました。麻酔科に入局し、大学病院を経て10月に異動してきました。関西弁が時折混ざるとは思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。



放射線科医師
＜プロフィール＞

(H 22. 9. 1～)
名 前 **池田 俊一郎**
出身 県 鹿児島県
出身 大学 佐賀大学
前 勤 務 先 県立大島病院
趣 味 スポーツ観戦

9月より放射線科で勤務させて頂いております。新しい環境に慣れるのに精一杯ですが、現在IVR-CTの入れ換え中であり、まだまだ慣れるのには時間がかかりそうです。御迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



循環器内科医師
＜プロフィール＞

(H 22.11. 1～)
名 前 **下野 洋和**
出身 県 鹿児島県
出身 大学 鹿児島大学
前 勤 務 先 鹿児島大学病院
趣 味 スポーツ観戦

今年八月より循環器内科に勤務しております。まだ経験も浅く周りの先生やスタッフの方々に御迷惑をおかけする部分も多いですが、一生懸命頑張っていきたいと思っております。患者様の役に立てるように頑張っていきたいと思っております。不慣れな点多くさんあると思っておりますが、今後ともご指導宜しくお願い致します。



お知らせ

IVR-CT 装置（64列 MD-CT/フラットパネル DSA、Siemens 社製）を更新導入しました

当院では平成22年11月より IVR-CT 装置を更新導入しました。この装置は血管造影装置と CT 装置が一体となっており、共通のベッドで血管造影と CT 撮影ができます。

搭載される CT 装置は MD-CT（64列 Multi Detector-row CT）で従来の輪切り画像だけでなくタテ、ナナメ、ヨコといった任意の断面の画像や高分解能 3D 画像（3次元画像）も短時間で得ることが可能となるものです。この装置の導入により動きの激しい臓器（心臓など）に対する検査も可能となります。超高速で超高分解能のスキャンが可能であることから、この技術を



応用し種々の検査部位に対しても画質の向上と応用が期待されます。とりわけ、入院で血管に管を入れて行われる冠動脈造影検査（心臓カテーテル検査）の代わりに、外来で患者様の苦痛も少なく短時間で行える冠動脈 CT 検査の有用性は広く知られていますが、当院はこれまで冠動脈 CT 検査が必要なほとんどの患者さんには64列 MD-CT が導入されている他の医療機関を受診して検査を受けてもらっていました。今回64列 MD-CT を搭載した IVR-CT 装置の導入により、高画質の冠動脈 CT が可能になりました。

また、診断や治療の目的で血管造影下に CT を撮影する場合がありますが、カテーテルを留置した清潔な状態で、血管造影室と CT 室を往復する必要ありません。また、共通の寝台であることにより、血管造影と CT 撮影を容易に繰り返し行うことができます。

当院では以前から主に肝細胞癌の診断および治療の目的で血管造影下に CT 撮影を行っていますが、この装置の導入により検査時間の短縮やより質の高い診断・治療ができるものと期待されます。

今まで当院では診断目的の CT 検査は16列 MD-CT 1 台で行っていましたので、検査をご依頼いただく諸先生並びに患者さんには慢性的に多大なご迷惑をおかけしていました。新しい装置を通常の診断用 CT としても有効に活用していきますので、今回の装置更新によって精密診断に役に立つ高度の検査が可能な装置が2 台になり、予約待ちを解消して検査当日の待ち時間も大幅に短縮できるようになりました。ご希望の日に検査予約が可能となり、当日のご依頼にも対応し易くなりましたので、これまで以上にご利用いただきますようお願い申し上げます。

問い合わせ先 放射線科部長 上野 和人
診療支援部部長 橋口 善治

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.17

創刊日：平成17年8月10日

発行日：平成22年12月10日（年3回 4・8・12月発行）

発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 院長 田畑 峯雄

担当：医療連携・相談室

TEL：099-254-1125（代表）

TEL：099-254-1121（医療連携・相談室）

FAX：099-254-1308（医療連携・相談室）

ホームページ：<http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp>

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。